洋上アルプス　No.369　令和８年度　７月

2026 年 07 月 09 日（木曜日）
オキナワキノボリトカゲ調査・防除活動について

本取組は、環境省がパークボランティア活動の一環として実施しているもので、環境省、鹿児島県、屋久島町及び屋久島森林管理署の職員とともに、オキナワキノボリトカゲの調査及び防除活動を行いました。

体長は全長約 20～30cm 程度で、オスは鮮やかな緑色になることが多く、メスや幼体は茶色やくすんだ緑色をしており、アリやクモなどの小動物を食べる樹上性のトカゲです。本来は、奄美諸島及び沖縄諸島に生息する種ですが、人為的な持込みにより本来の生息域以外にも定着しており、屋久島でも一部地域で定着が確認されています。鹿児島県では指定外来動植物に指定されており、緊急防除の対象となっています。

また、1 回の産卵で 1～4 個程度の卵を産む繁殖力の高い外来種であり、屋久島では有効な天敵となる生物が少ないと考えられることから、個体数が増えやすく、生態系への影響が懸念されています。そのため、個体数を減らすことで定着域の拡大を抑えることを目的として、防除活動が実施されています。

今回は、7 匹程度捕獲することができましたが、木の幹や枝に体色が溶け込んでいたため、中々見つけることができず、見つけても捕獲することが難しく、逃してしまうこともありました。

オキナワキノボリトカゲのような外来種は、生態系に大きな影響を及ぼすおそれがあります。野外で見かけた際は、むやみに別の場所へ移動させたり放したりせず、関係機関へ情報提供いただくなど、外来種対策へのご理解とご協力をお願いいたします。屋久島の豊かな自然環境と貴重な生態系を未来に引継いでいくため、今後も関係機関と連携し、生態系の保全に努めてまいります。




林縁を歩きながらの捜索（左）、捕獲したオキナワキノボリトカゲ（右）

2026 年 07 月 22 日（水曜日）
屋久島の森林･林業を知る ～令和 8 年度「屋久島森の塾」開催～

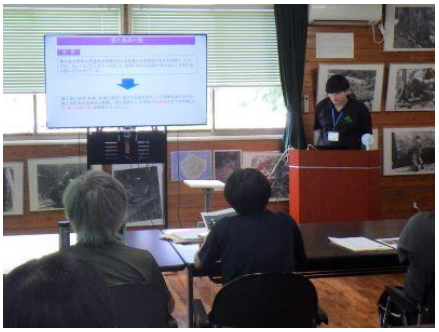
当保全センターと屋久島森林管理署では、平成 30 年度から町内小中学校教職員を対象とした「屋久島森の塾」に取組んでいます。今年度は小･中学校等から 5 名の教職員等参加のもと、世界自然遺産地域を有する屋久島で森林と学校教育がどのように結びつくのか、また、屋久島の林業の成り立ちから現在までに国有林野事業がどのように関わってきたのかを主なテーマとしました（屋久島町教育委員会共催）。

具体的には、6 つの講座に分けて実施しました。項目は「当保全センター及び屋久島署の業務について」「屋久島がなぜ世界遺産に登録されたのか？そして森林環境教育との繋がりについて」「屋久島の林業の成り立ちと林業遺産について」「ヤクスギ土埋木の利用と価値について」「ヤクシカによる森林被害とシカと森のカードゲーム」「屋久杉と地スギの違いを感じる木工教室」です。

参加者は、聞き慣れない言葉にも興味深く熱心に耳を傾けていました。世界自然遺産地域や土埋木の搬出についてなど多くの質問をされていました。更に、アンケートでは、「森林保護や林業などについて知る機会が少なかったので知れて良かった。」「シカの食害や木の香りなどを体験的活動のなかで学ぶことができる点が良かった。」など多くの感想をいただきました。

今後もアンケート結果を参考に、さらに内容を充実させ屋久島の将来の為に重要な人材育成の観点からも貢献できるよう、「屋久島森の塾」を継続して開催したいと考えています。





保全センターの業務を説明する下村所長（左）、森林官について説明をする宮川首席森林官（中）、森の塾について説明する梅見主事（右）





土埋木の搬出方法を説明する田中主任森林整備官（左）、「シカと森のカードゲーム」を体験（中）、木工作業に集中（右）

2026 年 07 月 29 日（水曜日）～30 日（木曜日）
屋久島世界自然遺産地域科学委員会・ヤクシカ WG を開催

令和 8 年度第 1 回屋久島世界自然遺産地域科学委員会、ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議（以下、ヤクシカ WG）が屋久島町役場において開催されました。

7 月 29 日のヤクシカ WG では、ヤクシカの生息状況や、捕獲等による被害防止対策、森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等、特定エリアの対策（西部地域）、第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画の骨子（案）、ヤクシカ生息調査（糞粒・糞塊）方法の検討について報告・議論が行われました。

会議では、令和 7 年度のヤクシカの捕獲状況や森林植生の回復状況などが報告され、捕獲従事者の確保・育成、メスを効率的に捕獲するための方法や、捕獲したヤクシカの適切な処理方法などの課題等について意見が交わされました。

7 月 30 日の科学委員会では、前回会議の議論整理や、屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況、令和 7 年度世界遺産地域モニタリング調査結果の概要及び 8 年度の計画、令和 8 年度第 1 回ヤクシカ WG 及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の報告、屋久島世界遺産地域における湿原保全対策の報告、し尿処理適正化の方向性に係る検討状況の報告、屋久島国立公園における公園計画の見直し等について関係機関より報告され、項目ごとに議論されました。

し尿処理適正化に係る報告では、委員から、有人化により奥岳利用者の増加が想定されるため、遺産地域への影響について慎重に検討するべきとの意見が出された。

今後も、関係機関が連携しながら、屋久島の豊かな生態系や美しい自然景観を未来へつないでいくための取組を進めていきます。



屋久島世界自然遺産地域科学委員会・ヤクシカ WG の様子